

Haemophilia 日本語版 Vol. 2 No. 1 の編集に当たって



担当編集委員
福武 勝幸
東京医科大学臨床病理科

Haemophilia 日本語版第2巻1号をお届けいたします。本号に収載されている論文は、*Haemophilia* 英語版の2000年1月号（第6巻1号）と3月号（第6巻2号）の中から選択しました。今回は、*Haemophilia* 英語版を正規機関紙として発行している世界血友病連合 [World Federation of Hemophilia (WFH)] の活動をご紹介するほか、血友病の治療法や治療薬の選択に関する情報を数多く掲載しました。

厚生省 HIV 感染者発症予防・治療に関する研究班の調査 (<http://csws.tokyo-med.ac.jp/hivcsg/>) によると、1998年には日本で4,165人の血友病患者さん（血友病A 3,442人、血友病B 723人）が止血治療を受けています。本号の Review Article では、日本とほぼ同じ患者数のイタリアにおける血友病などの遺伝性凝固障害症に対する医療の状況と補充療法のガイドラインをご紹介します。血友病センターを中心としたイタリアにおける血友病医療体制は、千数百施設が血液凝固因子製剤を用いた医療を行っている日本とはずいぶん異なる環境でありますし、凝固因子製剤の利用方法についても、経済的理由も加わり、日本とは全く違う状況の中でのガイドラインとなっています。しかし、日本ではこのようなEBMの概念に則り整理されたガイドラインはまだ作成されておらず、このイタリアのガイドラインは日本の血友病医療の今後の確立のために参考にできる資料といえるものです。

続いてWFHの活動をご紹介します。WFHは患者さんと医療従事者により設立されている国際非営利団体であり、WHOの公認団体として88か国の血友病医療組織を代表しています。発展途上国への援助など様々な活動が紹介されています。日本からもさらに多くの方々が会員としてご登録されることを願っております。WFHのインターネットホームページ (<http://www.wfh.org/>) も是非ご覧ください。このホームページには世界の血友病医療施設のリストが掲載されていますが、日本の病院の登録が大変少ないので是非参加していただきたいと思います。

会議報告 (Meeting Report) としては、第5回筋骨格会議の概要をご紹介します。関節置換術や滑膜除去術の有用性などとともに、高度な医療体制の確立が困難な地域の問題が議論されています。また、治療法選択の問題として遺伝子組換え型製剤とヒト血漿由来製剤について議論された他の会議の報告も収載しました。ウイルス感染などの安全性に関する問題から、開発

途上国の治療の実情まで広い範囲にわたって、様々な立場での意見が述べられています。

その他、8点の論文からアブストラクトと図表を掲載しました。デスマプレシン（DDAVP）の点鼻薬など日本では未承認の薬剤や経験の少ない治療法についての論文も含まれており、今後の治療の参考になると思います。

本号の内容から離れますが、先日ある会議で *Haemophilia* 英語版の Editor である C. M. Kessler 博士とお話をする機会がありました。同氏はかなりの親日家であり、*Haemophilia* 誌に日本からの論文の掲載が少ないことを大変に残念がっておられました。その言葉は、医療水準の高い日本からはもっと多くの血友病治療に関する論文が投稿されるべきであり、世界の血友病医療の発展に貢献して欲しいというメッセージであったと思います。本号巻末に英語版の投稿規程を掲載いたしましたので、日本語版の読者の皆様にはWFHへの入会とともに、英語版へ奮ってご投稿いただきますようお願いいたします。